

報道関係各位

2024年10月16日

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社

神奈川臨海鉄道株式会社

**日本通運と神奈川臨海鉄道、本牧-宇都宮間で国際海上コンテナの鉄道輸送を開始  
日産自動車の自動車部品を積載し、横浜本牧駅で出発式を開催**

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社（社長：堀切智）のグループ会社、日本通運株式会社（社長：竹添進二郎 以下、日本通運）と神奈川臨海鉄道株式会社（社長：飯田聡 以下、神奈川臨海鉄道）は、日産自動車株式会社（以下、日産自動車）の日産自動車栃木工場向け自動車輸入部品の一部をトラック輸送から鉄道輸送へ切り替えるモーダルシフトの取り組みとして、横浜本牧駅-宇都宮貨物ターミナル駅(\*1)間における国際海上コンテナの鉄道輸送を開始しました。本取り組みを記念し、10月16日（水）、横浜本牧駅で出発式を開催いたしました。

■ 背景

2024年4月のトラックドライバーの時間外労働規制強化により、国内の中・長距離トラック輸送における人手不足が大きな課題となっています。この状況を受け、鉄道輸送へのモーダルシフトが注目されていますが、国際海上輸送で広く利用される40フィートコンテナ（以下、40ftコンテナ）は、長さが原因で、多くの貨物駅では取り回しが難しく、またコンテナ留置スペースに限りがあることから、これまで一部の区間を除いて鉄道輸送が行われていませんでした。そのため、40ftコンテナの港から内陸部への輸送は、トレーラーによる陸送か、鉄道輸送の場合は、鉄道用コンテナに積み替える作業が必要となり、輸送効率の低下やコストが課題になっていました。

この課題解決のため、日本通運と神奈川臨海鉄道は連携して対応を進め、日本貨物鉄道株式会社（以下、JR貨物）が実施した2024年3月ダイヤ改正において新設された、横浜本牧駅-宇都宮貨物ターミナル駅間における海上コンテナ輸送ルートを活用することとし、検討を本格化させました。その後トライアル輸送を経て、この度、本牧-宇都宮間での40ftコンテナの鉄道輸送を開始することとなりました。

日本通運は、日産自動車の調達物流において、長距離区間(\*2)で鉄道輸送を積極的に活用してきました。今後、中距離区間(\*3)においても40ftコンテナをはじめ各種コンテナでの鉄道輸送を拡大し、さらなる物流の効率化と環境負荷の軽減を目指します。

## ■ 輸送概要

本取り組みは、物流業界が直面する「2024年問題」に対応するための一環として実施され、日産自動車栃木工場で生産されるEVクロスオーバー「日産アリア」の生産用自動車輸入部品を積載した国際海上コンテナ/40ftコンテナを鉄道輸送専用コンテナに積み替えることなくダイレクトで鉄道輸送を行います。物流の効率化とともに、サプライチェーン上でのCO<sub>2</sub>排出量をさらに削減することを目的としています。

- ・輸送品目 : 自動車輸入部品
- ・鉄道輸送区間 : 横浜本牧駅一宇都宮貨物ターミナル駅（営業キロ 143.2km）
- ・数量 : 40ftコンテナ x 2本/日（週5日を基本）
- ・CO<sub>2</sub>排出削減量 : 140t / 年（日本通運による試算）

## ■ 今後の展開

実施初年度のオペレーション上の課題や天災などによる鉄道輸送への影響を踏まえながら、次年度以降は輸送コンテナ本数の拡大を目指します。引き続き両社は、物流の効率化や、環境負荷の低減を目的とした取り組みを積極的に進め、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

## ■ 出発式概要

- 日時 : 2024年10月16日（水）9時00分～10時30分
- 会場 : 神奈川臨海鉄道 横浜本牧駅構内（神奈川県横浜市中区）
- 主催 : 日本通運、神奈川臨海鉄道

\*1 : 宇都宮貨物ターミナル駅 : JR貨物の貨物駅（栃木県河内郡上三川町）

\*2 : 長距離輸送区間 : 鉄道輸送への転換が進むとされる500km以上の輸送区間

\*3 : 中距離輸送区間 : 鉄道輸送への転換が難しいとされる500km未満の輸送区間



出発式の様子